

しょうせきかえ れきしゃ ゆめ あら いわ なんじは なに わ ひ
匠石帰る。櫟社、夢に見われて曰く、女將た悪にか予れを比す
るや。夫れ祖・梨・橘・柚の果蓏の属、実熟すれば則ち剥られ辱
おおえだ お こえだ ひ こ そ のう もつ そ せい くる
られ、大枝は折られ小枝は泄かる。此れ其の能を以て其の生を苦
もの ゆえ そ てんねん お ちゅうどう よう みずか
しむる者なり。故に其の天年を終えずして、中道にして夭し、自
せぞく ほうげき もの ものか ごと な わ
ら世俗に掙撃さるる者なり。物是くの若くならざるは莫し。予れ
ゆうよう は こ だい え しか し ちか
をして有用たらしめば、且た此の大あるを得んや。而して死に幾
さんじん またいづく さんぼく し しょうせき さ そ ゆめ
きの散人、又悪くんぞ散木を知らんやと。匠石、覚めて其の夢を
つ かれ ほう どころ しゅう い ぎ もつ あげつ
診ぐ。彼の保とする所は衆とは異なり。義を以てこれを誉らう
また とお
は、亦た遠からずやと。

【大体の意味内容】

だいく とうりょう せき いえ かえ よる ゆめ れきしゃ しんぼく あらわ
大工の棟梁の石が家に帰ると、その夜の夢に櫟社の神木が現れて、こう告げた。「お前は
いったいこのわしを何と比べておるのだ。祖や梨や橘や柚などの木の实・草の实の類
こぼけ なし たちばな ゆず き み くさ み たぐい
は、その実が熟するとむしり取られもぎ取られる。大きな枝は折られ、小さい枝は引きち
み じゆく と おお えだ ちい えだ ひ
ぎられることにもなる。これは、人間の役に立つという有能さがあることで、かえって自分
にんげん やく た ゆうのう
の生命を苦しめているものだ。だから、天に与えられた寿命を全うせず、道半ばで天死
せいめい くる てん あた じゅみょう まつと みちなか わかじに
したり、自分から世俗に打ちのめされたりしているものなのだ。かくの如くにならない物
じぶん せぞく う せぞく ちゅうよう
は無い。もしもわしが人間にとつて有用なものであったなら、このように大なる存在とは
な ない もしもわしが人間にとつて有用なものであったなら、このように大なる存在とは
成らなかつたであろう。お前は棟梁と敬われて思ひ上がっているようだが、死にかけの
な 成らなかつたであろう。お前は棟梁と敬われて思ひ上がっているようだが、死にかけの
やくだ さんじん さんじん せんざい
役立たず、すなわち散人にすぎない。お前からすると「役立たず」な散木のわしは、この

先いつ朽ちるのか見当がつかない長寿を保つ、そのような存在の神髄を、お前が知ること
はあるまい。」と。棟梁の石は目が覚めると、この夢のことを弟子たちに話した。「あの木
が宝とすることは、世間一般の価値観とは異なっているのだ。いのち短い我らの道理で
それを論じたてるのは、見当違いも甚だしいことだったのだな」と。

前回の話の後編です。

「其の能を以て其の生を苦しむる」といつのはまさに現代社会における皮肉を言い当てていま
す。有能で役立つ人ほど、社会の優秀な歯車として使えるだけ使い込まれ、摩耗し劣化したらポ
イと捨てられ、他と交換される。「役に立たなくなったら」「使えない」と評価された人は容赦なく
リストラされてきました。

リストラされる前は、追い詰められボロボロになり、或いはうつ病になったりして、でも「入
院」するようにはつきりした病気でない限りは休めないし、与えられたノルマを緩和してもら
えない。「甘えるな」「できない理由ばかり並べるな」「無責任だろ」とあおられます。拳句の果て
に「嫌なら辞めろ」と。失業したくなければ耐えて、頑張り続けるしかありません。なのにリス
トラされるわけです。限界だと思いつめた人の中には、自ら命を絶つ人もいらっしやいます。

「日本の自殺者数」は十年以上続いていた三万人をようやく割って、平成二十四年からは二万
人台に減ったと言われています(警察庁HP、厚生労働省HP)「自殺者数の推移」(一万人台で
も、毎日五十五人ずつ自殺しているのですから十分多いですが、実はもっと、とんでもなく多い
ともいわれています)。

「遺書」がない自殺は、「変死」の扱いで、「自殺者数」にはカウントされないそうです。首を
吊っていたりとかで明らかに自殺にしか見えない場合でも、です(確かに他殺や事故の可能性もあ
るとは言えますが)。とてもではないが、「遺書を書く」という心的状態ではなかった場合も多々
あったことでしょう。

「変死者」は十五万人だそうです(小泉純一郎首相、竹中平蔵金融担当大臣政権下の2003(平
成十五年)。民主党山田正彦議員調べ)。WHO世界保健機関では「変死者」の半分は「自殺者」
としてカウントするそうですから、国際基準に従えば日本の自殺者は十一万人前後と見なければ
ならないことになります。つまり毎日300人自殺していた、ということです。毎日ですよ。

このような世の中自体を変えていかなければならないのが大前提です。れいわ新撰組の山本太
郎の決め台詞ではありませんが「生きていたい世の中へ変えよう」です。

同時に、「散木」の「保(宝)とする所は衆とは異なる」という聞き直りも持ちたいですね。

「無為無能、役立たず」な自分。

「それがどうした!」「だから無敵なんだ!」

誰にも認められなくても、そのまんま堂々と生き抜いてしまおう。それってカッコいいし、
偉大だと思います。